

S I P 第 3 期「統合型ヘルスケアシステムの構築」
社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更について

令和 8 年 5 月 2 8 日
統合型ヘルスケアシステムの構築
プログラムディレクター 永井 良三

今般、統合型ヘルスケアシステムの構築においては、中間評価を踏まえた新たなビジョンに基づく事業の実施のため、社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更を行いたい。主な変更内容は以下のとおり。

1. 診療を支援する日本語医療版生成 AI の精度向上と臨床における有用性を高めるために、サブ課題 B-2（診療支援ソリューションの開発）及び E-2（大規模医療文書等の高精度解析基盤技術の開発）の一部を抽出・融合し、新たに B-6（日本人の多数の症例情報を学習させた実践的日本語医療 LLM の開発及び実装）を設置する。なお、B-6 の研究開発は、これまで取り組んできた内容と高い連続性をもって実施することが合理的であり、その研究開発責任者は公募によらず、令和 7 年度まで B-2 又は E-2 において関連する研究開発に従事していた者のうち、能力及び実績から適任と考えられる小林和馬氏（国立情報学研究所特任准教授）を選定する。
2. 医療機関における疾患の診療時のデータのみならず、それ以外の健康に関するデータ（健診データ）も活用し、より高機能な「個人の健康管理支援ソリューション」や「医療従事者支援ソリューション」を開発するために、サブ課題 A-3（PHR デジタルツインの開発）と B-3（受診支援・電子カルテ機能補助システムの開発）を統合する。
3. ステージゲートの結果を踏まえて、B-4 の一部の研究開発テーマの SIP における実施を中止した。
4. 中間評価を踏まえた「新たなビジョン」の実現に向けて、社会実装に向けた取組を加速させるために、研究推進法人に「社会実装推進チーム」を設置し、各サブ課題の成果の社会実装に向けた支援を行う。
5. その他、各サブ課題について、過年度の進捗を記載するとともに、ステージゲート及び中間評価における委員コメントを踏まえて、社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の一部変更を行う。

以上